

(事後評価)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）

(実施期間：令和2～3年度)

代表機関：名古屋大学（総括責任者：松尾 清一）

共同実施機関：岐阜大学・国立女性教育会館

取組の概要

女性研究者が研究キャリアを積み上げる過程で、キャリアパスから次々と脱落していく「水漏れパイプ」問題は、どの国においても深刻な解決すべき問題である。女性研究者の活躍を促進するためには、キャリアパスの入口である女性ポスドク問題への対応、女性が不利とならないような教員人事選考の導入、女性管理職の積極的登用等、研究キャリアパスのあらゆる段階で女性が脱落しないような取組を実施することが重要である。本調査は、女性研究者のキャリアパス全体を網羅する分析により、効果的な女性研究者の活躍促進の取組を提示する。調査対象国は、スウェーデン、アメリカ、オーストラリア、韓国、シンガポールの5カ国である。分析にあたっては、文系、理工系、医学系の3分野に分けて行い、制度や取組内容についてのヒアリングだけでなく、管理職に就く女性教員及びポスドク女性にも聞き取りを行い、女性研究者の意識や実体験についても調査する。

(1) 評価結果

総合評価	計画達成度	取組	取組の成果	実施体制
S	s	a	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者支援において実績のある3機関が女性研究者の現状調査を踏まえ、女性研究者がキャリアを積み上げる過程でキャリアパスから脱落していく、いわゆる「水漏れパイプ」現象に着目し、役割分担を明確にしつつ協働して海外の大学の優れた取組事例の調査分析を行ったことは高く評価できる。コロナ禍にあつて現地調査が困難な想定外の事態にもかかわらず、事業計画を迅速かつ的確に変更し、インターネットを活用したアンケート調査やインタビュー調査等を活用することにより所期の目標を超える成果を挙げた。また、海外の大学の優れたマニュアルやプログラムを参考に、調査分析の成果物である「大学における多様性を推進するための教員採用マニュアル」及び「大学等における無意識のバイアス研修プログラム」を開発し、連携する機関において実証評価を実施した上で、誰もが利用可能な形で迅速に公開し利用実績を挙げていることは高く評価できる。

- ・ **計画達成度**：連携する機関における女性研究者の現状調査とその分析結果を踏まえ、コロナ禍の影響を受けながらも、欧米やアジアの大学を対象に、インターネットを活用したアンケート調査やインタビュー調査を実施し、柔軟に調査活動を展開した。所期の計画通りに海外の優れた取組の調査分析を実施し、調査分析の成果物である「大学における多様性を推進するための教員採用マニュアル」、「大学等における無意識のバイアス研修プログラム」を作成したことは

高く評価できる。

- **取組**：「水漏れパイプ」現象を数値化し、その解決のための効果的な取組を分析するために、文献調査、オンラインを活用したアンケート調査やインタビュー調査という手法を用いて、欧米4大学及びアジア3大学を対象とし、分野間、地域間の比較調査とその分析を丁寧に行ったことは評価できる。医学系研究者への調査が十分実施されなかったこと、海外の大学におけるアンケート調査のサンプルサイズが小さかったことは今回の調査における課題であり、今後の改善を期待する。
- **取組の成果**：研究分野別、職階別に女性研究者の「水漏れパイプ」現象の実情を数値データとして明確にし、当初の想定以上の成果をあげたことは高く評価できる。また、調査対象大学及び諸外国のダイバーシティ推進に関する現状と最新の動向を抽出することにより作成した「教員採用マニュアル」及び「アンコンシャス・バイアス研修プログラム」を、連携する機関での活用にとどまらず、連携する機関が有するネットワーク等を活用して公開し、成果の全国的な普及に努めていることは高く評価できる。
- **実施体制**：連携する3機関がそれぞれの強みを活かした適切な役割を担うとともに、密接な協働体制を構築して調査を実施したことは高く評価できる。また、社会調査経験を持つ研究者と女性研究者支援に携わってきたメンバーからなる「調査分析タスクフォース」を創設し、実質的な調査分析を実施したことは高く評価できる。